

東日本大震災と保健医療**Great East Japan Earthquake and Health****目次**

CONTENTS

谷 莊吉先生を偲ぶ／日本保健医療行動科学会 理事一同

I. 特集論文

SPECIAL ARTICLE

1. 気仙沼での災害医療支援と地域づくりの決意／山内勇人 ……………2
Determination of the Community Development through Disaster Medical Assistance in Kesenuma / Hayato Yamauchi
2. Factors Related to Oral Health Status of Disaster Victims 9 Months after Great East Japan Earthquake / Mitsuo Kishi, Fumie Aizawa, Miki Matsui, Ruriko Suzuki, Hiroyuki Miura, Yukari Yokoyama, Kiyomi Sakata, Akira Ogawa…………12
東日本大震災9か月後の被災地住民の口腔の健康状態に関する要因／岸 光男, 相澤文恵, 松井美樹, 鈴木るり子, 三浦廣行, 横山由香里, 坂田清美, 小川 彰
3. 阪神・淡路大震災, 東日本大震災の直接死・震災関連死からみる高齢者の脆弱性
／三谷智子, 村上由希, 今村行雄 ……………23
Consideration of Vulnerability Concerning the Elderly on Disaster and Disaster-related Deaths / Satoko Mitani
4. 震災支援時の心理学的対応について／川端康雄, 若林暁子, 元村直靖, 米田 博 ……………31
Psychological Support in the Great East Japan Earthquake / Yasuo Kawabata, Akiko Wakabayashi, Naoyasu Motomura, Hiroshi Yoneda
5. 東日本大震災における医療系民間ボランティア団体现地派遣員の活動内容と活動期間と帰任後の心理状態／原田奈穂子, 新福洋子, 重村 淳, 安酸史子 ……………40
The Descriptions of Relief Work and Stress Perceived by Medical Volunteers Dispatched

to the Affected Regions of the 2011 Great East Japan Earthquake Disaster / Nahoko Harada, Yoko Shimpuku, Jun Shigemura, Fumiko Yasukata

6. 宮城県亶理郡山元町における被災者へのこころの支援活動－東日本大震災からの歩みと課題－
 / 眞崎由香, 橋本佐由理, 樋口倫子, 山内恵子48
 Psychological Care for the Residents of Post-tsunami Yamamoto-cho in Watari-gun, Miyagi Prefecture: The Progress and Assignments since Great Eastern Japan Earthquake Disaster
 / Yuka Masaki, Sayuri Hashimoto, Noriko Higuchi, Keiko Yamauchi
7. 宮城県亶理郡山元町における被災者へのこころの支援活動－傾聴ボランティア養成と被災者支援ボランティア活動の教育効果－/ 橋本佐由理, 眞崎由香, 樋口倫子56
 Psychological Care for the Residents of Post-tsunami Yamamoto-cho in Watari-gun, Miyagi Prefecture: Listening Volunteer Training and the Education Effect of Disaster Victims Support Volunteer Activity / Sayuri Hashimoto, Yuka Masaki, Noriko Higuchi
8. 宮城県亶理郡山元町における被災者へのこころの支援活動－セラピストとしての学びと課題－
 / 樋口倫子, 橋本佐由理, 眞崎由香, 山内恵子65
 Psychological Care for the Residents of Post-tsunami Yamamoto-cho in Watari-gun, Miyagi Prefecture: On the Basis of What We Learned for Therapist / Noriko Higuchi, Sayuri Hashimoto, Yuka Masaki, Keiko Yamauchi
9. 東日本大震災をめぐる脳梗塞をもつ人の体験とその支援－新聞記事の分析を通して－
 / 本庄恵子, 三浦英恵, 下村裕子, 和田美也子, 丹羽淳子, 仁昌寺貴子, 住谷ゆかり, 餘目千史, 山本伊都子73
 Experience and Support of People with Cerebral Infarction during the Great East Japan Earthquake: Analysis of Newspaper Articles / Keiko Honjo, Hanae Miura, Hiroko Shimomura, Miyako Wada, Atsuko Niwa, Atsuko Nishoji, Yukari Sumiya, Chifumi Amarume, Itsuko Yamamoto
10. 東日本大震災における透析医療への影響とそこから見えてきた「備え」について
 / 岡美智代, 川名篤子, 麓 真一78
 The impact of the Great East Japan Earthquake on the Dialysis Medicine and the Importance of Preparation / Michiyo Oka, Atsuko Kawana, Shinichi Fumoto

II. 原著論文

ORIGINAL CONTRIBUTION

1. 家族形態別にみた在宅高齢者の地震に対する防災意識と対策に関する研究
 / 塚本都子, 佐藤敏子88

Study on Disaster Prevention Awareness to Earthquakes by Homebound Elderly People and Countermeasures by Family Form / Miyako Tsukamoto, Toshiko Sato

2. 高齢者から“ケアされる”体験のプロセス—学生のケアリング場面の分析—
 / 小松美砂, 濱畑章子98
 The Process of Experiencing “Being Cared for” by Older Adults: Analysis of Caring Settings of Students / Misa Komatsu, Akiko Hamahata

Ⅲ. 研究ノート

RESEARCH NOTE

1. 失語症リハビリ教室支援ボランティアの育成方法についての検討 / 花家 薫107
 Examination about the Volunteer Training Method to Support the Group Rehabilitation Lesson for Aphasic People / Kaoru Hanaie

Ⅳ. 鍵概念

KEY CONCEPT

- コンコダンス—慢性病をもつ人のコンコダンス— / 横山悦子115
 Concordance: for People with Chronic Disease / Etsuko Yokoyama

Ⅴ. 学会関連記事

INFORMATION

- 日本保健医療行動科学会 設立趣意書119
 日本保健医療行動科学会 会則120
 日本保健医療行動科学会 理事・監事選出規約123
 日本保健医療行動科学会 中川記念奨励賞内規124
 日本保健医療行動科学会 中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規125
 日本保健医療行動科学会 奨励研究員内規126
 日本保健医療行動科学会 雑誌投稿規定127
 日本保健医療行動科学会 雑誌投稿原稿チェックリスト130
 日本保健医療行動科学会雑誌 (旧年報) —バックナンバーのご案内—131
 日本保健医療行動科学会 第10期役員・委員会構成132
 〈編集後記〉133

Edited by the Japan Academy for Health Behavioral Science

Apt. # 801, 4-12-5 Minami-Yawata, Ichikawa-shi, Chiba, 272-0023 Japan

Email : info@jahbs.info URL : http://jahbs.info/

谷 莊吉先生を偲ぶ

日本保健医療行動科学会 理事一同

去る平成 26 年 3 月 17 日、谷先生が逝去されました。胃がんで手術されてから持ち直されて、我々の研究会でも元気なお顔を見せて頂いておりましたのに。心から安らかな旅立ちをお祈りいたします。

谷莊吉先生は日本保健医療行動科学会の重鎮であり、かなり早い時期からホスピス活動に関われ「大阪・生と死を考える会」の会長として各地で生と死についての「話し合い」と「わかちあい」に先駆的に取り組まれました。

先生の教えは我々学会員ばかりでなく市井の人々にも強い感銘を与え、「一度しか講演を聞いてませんが、人生の師と仰いでおります」と告別式でもその早すぎる死を痛む声が多く聞かれました。先生は 1931 年神奈川県のお生まれで、横浜市立大学医学部、東京大学大学院をご卒業の後、東大医科学研究所助教授、金沢医科大教授を歴任され、1995 年ホスピス病棟を立ち上げるべく小松病院院長に赴任され、その後、勢力的に生と死について語り続けられ、我々の学会にも大きな足跡を残されました。それにしても、我々は甲南大学の谷口文章先生に続いて谷莊吉先生まで失ってしまいました。これまで、何か困ったことがあるとお二人の貴重なご意見が我々の指針になってきたように思われます。

今、我々はまるで父親を失ったような深い悲しみにくれています。それでも失意にくれてばかりはいられません。きっと前に進み続けることが谷先生の御意思であるに違いありません。しっかり前を見つめて進み続けようではありませんか。